

令和8年度 病害虫発生予察注意報 第5号

- 1. 病害虫名 : 斑点米カメムシ類
- 2. 対象作物 : 水稻（短期栽培、普通期栽培）
- 3. 発生が予想される地域： **県内全域**
- 4. 発生程度 : **多**

5. 注意報発表の根拠

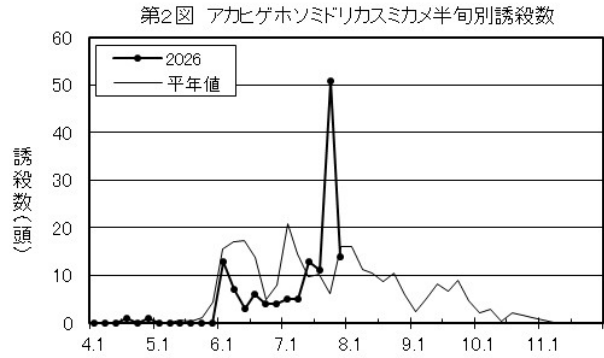
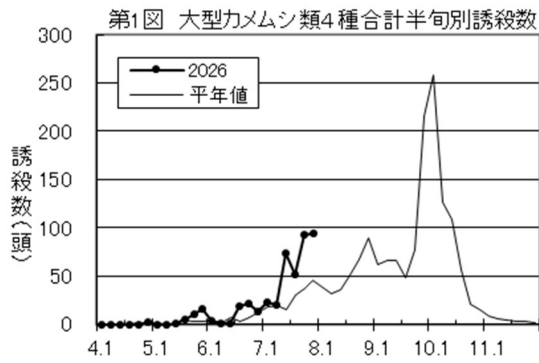
(1) 7月下旬の早・短期水稻の畦畔における発生調査では、大型カメムシ類（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ）が発生ほ場率66.7%（平年：50.5%）、虫数は5.3頭（平年：3.9頭）とやや多かった（第1表）。

(2) 綾歌郡綾川町の予察灯における7月の誘殺数は、大型カメムシ類（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ）が357頭（平年：167.3頭）で2.1倍と多く（第1図）、小型カメムシ類のアカヒゲホソミドリカスミカメが99頭（平年：77.3頭）で1.3倍とやや多かった（第2図）。

(3) 向こう1か月の気象は気温が高い予報であり、斑点米カメムシ類の発生が多くなるおそれがある。

第1表 早・短期水稻の畦畔での大型カメムシ類発生状況 ¹⁾		
年次	7月下旬	
	発生ほ場率(%)	虫数 ²⁾
2016年	55.6	4.2
2017年	50.0	3.6
2018年	33.3	5.7
2019年	50.0	4.9
2020年	44.4	1.9
2021年	33.3	2.2
2022年	33.3	1.2
2023年	44.4	3.3
2024年	83.3	3.1
2025年	77.8	8.7
平年	50.5	3.9
2026年	66.7	5.3

1)18ほ場においてほ場ごとに畦畔を20回、捕虫網ですくい取って調査
2)発生ほ場における平均虫数



6. 防除実施上の留意点

1) 畦畔等ほ場周辺の除草を行い、カメムシ類の発生源を少なくする。ただし、出穂直前に行うと、カメムシ類のは場への移動を促すことになるので、雑草の刈り取りを行う場合は、出穂 10 日前までに行う。特に、小型カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）はイネ科雑草の穂を餌として増殖する傾向が顕著なため、畦畔や周辺雑草地の草刈りが有効である。

2) 薬剤防除の時期は、液剤や粉剤等の場合は穂揃期頃に 1 回目の防除を行い、発生が多い場合はその 7～10 日後に再度防除する。また、粒剤の場合は 5 日程度早めて処理する。

なお、穂揃期以降にミナミアオカメムシが水稻で繁殖している場合は、粒剤よりも速効的で効果が高いとされる液剤や粉剤の使用が望ましい。イネカメムシの発生があるほ場では、出穂直後の穂を加害することにより不稔被害を引き起こすことがあるため、穂揃期以降ではなく出穂期の防除が重要である。

3) 薬剤防除にあたっては、防除効果を高めるために地域一斉防除に努め、かつ適用作物や収穫前日数などの使用基準を遵守すること（第 3 表）。なお、休耕田に使用できる薬剤もある（第 4 表）。



香川県主要農作物病虫害・雑草防除指針

https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichubojyo/byogaichu/sisin/byougaityuu_sisin.html



ホソハリカメムシ（成虫）



クモヘリカメムシ（成虫）



シラホシカメムシ（成虫）



ミナミアオカメムシ（成虫）



アカヒゲホソミドリカスミカメ（成虫）



アカスジカスミカメ（成虫）

第3表 水稻の斑点米カメムシ類に登録のある主な薬剤と使用基準
(薬剤名は香川県主要農作物病害虫雑草防除指針より抜粋)

薬剤名	10a当たり散布量 または希釈倍数	収穫前日数 ／使用回数	有効成分	IRACコード ¹⁾
スミチオン乳剤	1,000倍	21／2	MEP (フェントロチオン)	1B
トレボン乳剤	2,000倍	14／3	エトフェン [®] ロックス	3A
トレボンEW	1,000倍	14／3	エトフェン [®] ロックス	3A
トレボン粉剤DL	3～4kg	7／3	エトフェン [®] ロックス	3A
ダントツ粒剤	3～4kg	7／3	クロチアニジン	4A
ダントツフロアブル	5,000倍	7／3	クロチアニジン	4A
ダントツ粉剤DL	3～4kg	7／3	クロチアニジン	4A
ダントツH粉剤DL	3～4kg	7／3	クロチアニジン	4A
アルバリン粒剤	3kg	7／3	ジノテフラン	4A
スタークル粒剤	3kg	7／3	ジノテフラン	4A
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	7／3	ジノテフラン	4A
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	7／3	ジノテフラン	4A
スタークル液剤10	1,000倍	7／3	ジノテフラン	4A
アルバリン粉剤DL	3kg	7／3	ジノテフラン	4A
スタークル粉剤DL	3kg	7／3	ジノテフラン	4A
スタークル豆つぶ	250g	7／3	ジノテフラン	4A
エクシードフロアブル	2000倍	7／3	スルホキサフロ	4C
エクシード粉剤DL	3kg	7／3	スルホキサフロ	4C
エミリアフロアブル	1000倍	7／2	フルビ [®] リミン	4F
キラップ粒剤	3kg	14／2	エチ [®] ロール	2B
キラップフロアブル	1,000～2,000倍	14／2	エチ [®] ロール	2B
キラップ粉剤DL	3～4kg	14／2	エチ [®] ロール	2B

1) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。
※キラップ粒剤とそれを含む混合剤を使用する場合は、出穂10日前～出穂期頃に使用する。

第4表 休耕田のカメムシ類に登録のある主な薬剤と使用基準¹⁾

(薬剤名は香川県主要農作物病害虫雑草防除指針より抜粋)

薬剤名	10a当たり散布量 または希釈倍数	収穫前日数 ／使用回数	有効成分	IRACコード ²⁾
スミチオン乳剤	1,000倍	—／4	MEP (フェントロチオン)	1B
キラップフロアブル	2000倍	—／2	エチ [®] ロール	2B
キラップ粉剤DL	4kg	—／2	エチ [®] ロール	2B
トレボン乳剤	2,000倍	—／3	エトフェン [®] ロックス	3A
トレボンEW	1,000倍	—／3	エトフェン [®] ロックス	3A
トレボン粉剤DL	3～4kg	—／3	エトフェン [®] ロックス	3A
ダントツ水溶剤	4,000倍	—／4	クロチアニジン	4A
ダントツH粉剤DL	3～4kg	—／4	クロチアニジン	4A

1) ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田。

2) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

- 
- ・住宅地等に接した地域及び広範囲に防除する場合は、散布する前に付近住民などに周知するとともに、飛散しにくい農薬を使用するようにしましょう。
 - ・農薬散布は、無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選び、風向き、ノズルの向き等に注意して飛散防止を心がけましょう。

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/index.html>

